

キャリア教育カリキュラムに基づく出前授業実施計画（単元計画）

福山市立新市中央中学校

キャリア教育で育てる資質・能力

3 観点	思考・判断・表現/主体的に学習に取り組む態度	知識・技能/主体的に学習に取り組む態度	知識・技能/思考・判断・表現
資質能力	チャレンジ&チェンジする力	自己理解力	自己表現力
中2・3	・目標達成に向けて、より良い方法を考えて取り組むことができる。 ・達成状況を振り返り、改善策を考えることができる。	日々の学習活動を通して、自分の将来の夢や目標、生き方を考えることができる。	自分の思いや考えを、相手や場に応じて、分かりやすく説明することができる。
中1	活動をふり振り返り、改善策を考える。	自分の将来の夢や目標を持つ。	自分の思いや考えを多様な表現方法を用いて説明できる。

学年	教科	題材名（全10時間）	教科の目標	キャリア教育で育てる資質・能力	関連企業等	
1	美術	透視図法を用いて描いた理想の部屋のデザインをクライアントに提案しよう。	<b>知</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>形や色、材料、光などが感情にもたらす効果や、建築物の造形的な特徴をもとに、デザインの役割や働きを全体のイメージで捉えることを理解している。</li> <li>意図に応じて表現方法を創意工夫し見通しをもって創造的にあらわしている。</li> </ul> <b>思</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>住みよい住居を考えることで主題を生み出し、形や色、使いやすさや機能美しさなどの調和を総合的に考え表現の構想を練っている。</li> <li>建築物の調和のとれた美しさや洗練された形を感じ取り、住まいにおけるデザインの役割や働きなどを考えるなどして美意識を高め、見方や感じ方を深めている。</li> </ul> <b>主</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>美術の創作活動の喜びを味わい、主体的に暮らす人々にとっての住みよい住居を考えデザインする表現の学習活動に取り組もうとしている。</li> </ul>	<b>★自己理解</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>日々の学習活動を通して、自分の将来の夢や目標、生き方を考えることができる。</li> </ul> <b>★自己表現</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いや考えを、相手や場に応じて、分かりやすく説明することができる。</li> </ul> <b>チ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標達成に向けて、より良い方法を考えて取り組むことができる。</li> <li>達成状況を振り返り、改善策を考えることができる。</li> </ul>	積水ハウス	
次	時	学習活動	指導上の留意点	○教科の評価規準 ★キャリア教育で育成する資質・能力の評価規準	評価方法 例：行動観察 ワークシート ペーパーテストなど	
1	1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な遠近法を用いた作品を鑑賞する。</li> <li>透視図法を用いた作品（過去の生徒作品含む）もあわせて鑑賞し、遠近法の表現方法の違いを知る。</li> <li>今後の制作活動への見通しを持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>遠近法について学ぶ際、今後生徒たちが取り組む「線遠近法」について意欲的に取り組めるよう、興味・関心の高い題材選定をする。</li> <li>苦手に繋がらないよう、説明は極力少なくし、視覚的・感覚的に捉えられるよう写真など画像を用いて説明する。</li> <li>簡単な図形を用意しておき、一点透視図法を描かせ、奥行きを表し方の練習をする。描けた生徒については、クラス全員が描けるようになるよう教えあい活動を入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に遠近法の違いについて理解を深め、意見を交わして自分の考えを深めようとしている。（主）</li> <li>○一点透視図法を用いて、簡単な図形に奥行きを表すことができている。（知）</li> </ul>	ワークシート 行動観察
2	2	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>クライアントの要望を聞く。</li> <li>要望に対するアイデアを出す。</li> <li>自分なりの「提案」も盛り込む。</li> <li>部屋全体のアイデアスケッチをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>要望を聞くクライアントの設定については、生徒の実態やクラス環境、人間関係を考慮して行う。（生徒同士で要望を出し合う時は、1人になる生徒がいないように配慮する。生徒同士が困難な場合は、予め教員側でクライアントとその要望を準備しておく。）</li> <li>実際の部屋には置けないようなもの、建具など、「ありえないもの」も発想の1つとして取り入れるよう生徒に声掛けする。（シュルレアリスムの発想を提示しても良い。）</li> <li>発想することが難しい場合は既存の建築物からアイデアを膨らませてもよいことを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○形や色の感情効果を意識しながら構想を練っている。（思）</li> <li>○主体的にクライアントと自分なりの提案を織り交ぜデザインしアイデアスケッチができている。（主）</li> </ul>	ワークシート 行動観察
		1	<ul style="list-style-type: none"> <li>★出前授業にて「家をつくること」についての話を聞く。また、相手の要望を聞き、実現させるためのプロセスを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考え好みや他人の好みなど、自己理解を深めるきっかけになることはもちろん、クライアントのためのデザインのヒントにもなる旨を伝え、他者の考えにも触れさせるようにする。（イメージカラーワークシート）</li> <li>（イメージカラーワークシートについては、実際に実施されるかどうかを事前確認しておく。必要な道具なども数量確認。）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>★自分の思いや考えをイメージカラーワークシートを用いて分かりやすく説明することができる。（自表）</li> <li>★一級建築士の方の話を聞き、自分の進路について考えることができている。（自理）</li> <li>○今後の自分の制作へのヒントとなる発想の転換ができている。（思）</li> </ul>	イメージカラーワークシート キャリア・パスポート ワークシート
3	6	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>一点透視図法で部屋を描く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一点透視図法で表すための技法の習得。（復習）</li> <li>アイデアスケッチをもとに、一点透視図法であらわす。</li> <li>丸い形など、線での遠近感の表現が難しいものについては丁寧に基本形から机間指導を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○クライアントからの要望をもとに主題を生み出し、線遠近法（一点透視図法）による効果を用いながら形や色、使いやすさなどの機能美など調和を総合的に考え、豊かに構想を練っている。（思）</li> </ul>	作品 アイデアスケッチ 行動観察
		3	<ul style="list-style-type: none"> <li>色鉛筆で着彩する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料や参考作品を提示しながら、色鉛筆での表現の幅広さに興味を持たせる。</li> <li>単調に塗るのではなく、混色や筆圧をかえてみるなど、様々な表現方法に挑戦させる。（ワークシートで練習）</li> <li>学校で準備しているのは12色の色鉛筆なので、可能であれば持ってくるよう声をかける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○材料や用具の特性を生かし、意図に応じて自分の表現方法を追求し見通しをもって創造的にあらわしている。（知）</li> </ul>	作品 ワークシート 行動観察
4	1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>相互鑑賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各班内で発表させ、代表がクラスで発表する。</li> <li>発表する際には、クライアントからの要望から、自分が何を考えて作品に反映させたかを明確に述べるよう伝える。</li> <li>どのような形のものなのか、色や形、配置の仕方、家具、部屋の構造についてもデザインコンセプトを言わせる。</li> <li>発表を聞いている生徒は適宜メモを取り、自分の作品に活かせることがないか考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○班内・クラス内において自分の作品を発表できる。（自）</li> <li>○発表内容について、デザインのコンセプトをクライアントの要望や他の発表者の内容から発想を広げ、構想している。（思）</li> </ul>	発表 ワークシート 振り返り

本題材での成果・子どもの姿（子どもの意見など）  
 ○イメージカラーワークシートを用いることで、自分の好きなイメージ、他者の好むイメージについて感覚的に捉え、考えることができていた。  
 ○建築士の方の話を通して、自己を取り巻く住空間について意見や考えを交わすことができていた。  
 ○デザインについての考え方を、建築という側面から考えることができていた。  
 【生徒の感想】  
 ○イメージカラーワークシートをして、自分がどんな家に住みたいか、ふんわりでも思っていることを知ることができた。デザインにもいろんなパターンがあるのだと知れた。アイデアの数が沢山あると、選択の幅も広がると思った。  
 ○プレッシャーの大きい仕事だけれど、莫大な財産を預かっている分、理想の家をデザインし、建てられた時の感動はものすごいんだろうなと思った。  
 ○家主の将来を一緒に考えていく素敵な仕事だと感じた。

本題材での課題・改善案  
 ○題材のはじめに見通しをもたせ、出前授業でのイメージマップの必要性を理解させておく。  
 ○「美術」での建築の取り扱いなので、実現可能・不可能については考慮しない範囲での扱いであることを理解させた上で、出前授業にあたる。（後の作品制作に影響が出るため）  
 ○関連企業にイメージカラーワークシートを取り扱ってもらえるかどうかの確認を事前に必ず確認しておく。

